

短 報

年齢組成が不明な場合の
 サケの回帰率推定法

赤嶺達郎¹⁾・能勢幸雄²⁾
 清水 誠²⁾

A Method of Estimating Salmon
 Returning Rate When the Age
 Compositions of Returned
 Groups are Unknown.

TATSURO AKAMINE¹⁾, YUKIO NOSE²⁾
 AND MAKOTO SHIMIZU²⁾

Abstract

The mathematical model of this estimation is in the form of simultaneous linear equations:

$$\begin{pmatrix} R_5^* \\ R_6 \\ | \\ R_{n+2} \\ R_{n+3}^* \\ R_{n+4}^* \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} t_4 & t_3 & t_2 & & & \\ & t_5 & & & & \\ & & & & t_2 & \\ & & & & & t_3 \\ & & & & & & t_4 \\ & & & & & & & t_5 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} C_1 \\ C_2 \\ | \\ C_{n-2} \\ C_{n-1} \\ C_n \end{pmatrix}$$

R_i : returned number in i year
 C_i : returned number of i year class group
 tk : rate of k age number in C_i

The method of solving this equation is Gaussian elimination. When $t_2=t_5=0$, it can be solved easily. The inverse matrix makes it easy to estimate the effects of parameters: R^* and tk .

- 1) 〒951 新潟市水道町1丁目5939-22
 日本海区水産研究所
 (Japan Sea Regional Fisheries Research Laboratory, Suido-cho, Niigata 951, Japan)
- 2) 〒113 東京都文京区弥生1-1-1
 東京大学農学部
 (Faculty of agriculture, University of Tokyo, Bunkyo, Tokyo 113, Japan)

サケ (*Oncorhynchus keta*) の回帰率の算出法は、従来放流4年後の回帰尾数を放流尾数で除すことで計算されてきた。しかし、近年、種苗放流事業が盛んになるにつれて、また、国際的な問題もからんで、より正確な回帰率の推定値が必要となり、回帰群の年齢組成調査等が行なわれている。また、比較のため、過去のデータから、より正確な回帰率を計算する手法もあわせて検討されている。

ここでは年級群において、一定の比率で2~5年後に回帰するモデルをつくり、連立方程式を解くことによつて回帰率を求める方法について述べるとともに、大船川の調査例に適用させてその有効性を検討したので、その結果を報告する。

モ デ ル

i 年度における放流尾数を E_i 、回帰尾数を R_i とおく。また i 年度に放流された年級群の回帰尾数を C_i とおき、 k 年後に回帰する比率を tk_i とおく。このとき $\sum_k tk_i = 1$ で、一般には $t_4 > t_3 > t_2, t_5$ である。求める回帰率は $P_i = C_i/E_i$ となる。 E_i と R_i は与えられている。したがつて問題は R_i から C_i を求めることである。モデルは

$$R_{i+4} = t_2 t_{i+2} C_{i+2} + t_3 t_{i+1} C_{i+1} + t_4 C_i + t_5 t_{i-1} C_{i-1} \dots$$

となる。これより連立方程式をつくり R_i から C_i を求める。このとき

- 1) 未知数と方程式の数を一致させる。
- 2) 係数行列の主対角線に最大値が並ぶようにする。

以上の2点を留意する必要がある。2) は数値解析上安定な解を得るための条件である。これより連立方程式は

$$\begin{pmatrix} R_5^* \\ R_6 \\ | \\ R_{n+2} \\ R_{n+3}^* \\ R_{n+4}^* \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} t_4 & t_3 & t_2 & & & \\ t_5 & t_4 & t_3 & t_2 & & \\ & t_5 & t_4 & t_3 & t_2 & \\ & & t_5 & t_4 & t_3 & t_2 \\ & & & t_5 & t_4 & t_3 \\ & & & & t_5 & t_4 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} C_1 \\ C_2 \\ | \\ C_{n-2} \\ C_{n-1} \\ C_n \end{pmatrix} \quad \text{---(2)}$$

$$\begin{cases} R_5^* = R_5 - t_5 C_0 \\ R_{n+3}^* = R_{n+3} - t_2 C_{n+1} \\ R_{n+4}^* = R_{n+4} - t_3 C_{n+1} - t_2 C_{n+2} \\ \sum_k tk_i = 1 \end{cases}$$

となる。 R^* には推定値を代入する。(2)を

第 1 表 大槌川のサケのデータ

Table 1. Returned salmon data in Oozuchi river.

i	$E_i (\times 10)$	$P_i (\%)$	C_i	$t2C_i$	$t3C_i$	$t4C_i$	$t5C_i$	R_i
1	510	.244	1243		313	774	156	
2	1471	.091	1350	27	507	657	159	
3	3934	.326	12823	369	2056	9199	1199	
4	4004	.070	2789	212	932	1574	71	4733
5	1150	.115	1318	81	535	666	36	1892
6	3005	.045	1351	231	843	222	55	3080
7	7936	.090	7114	263	1045	5055	751	10371
8	2633	.186	4892	41	906	3414	526	3537
9	1062	.178	1891	114	546	1174	57	1844
10	1911	.215	4118	415	1746	1862	95	1344
11	7880	.044	3469	293	1351	1546	279	6130
12	5745	.243	13975	379	2281	9783	1532	5132
13	3663	.364	13338	276	2901	5724	437	3739
14	3643	.152	5522	562	2029	2850	81	3649
15	4639	.196	9113	441	4304	4152	216	4197
16	11328	.246	27815	1123	3436	21655	1625	17526
17	8868	.824	73108	7227	45269	20794		9726
18				415	5720			8714
19				736				14895
20								67555
21								28426

第 2 表 回帰率の計算結果

Table 2. Result of calculation for returning rate.

i	C_i	R_{i+4}	$C^{(1)}$	$C^{(2)}$
1	1243	1892	5762	5795
2	1350	3080	-6963	-4213
3	12823	10371	18490	14487
4	2789	3537	1843	3933
5	1318	1844	4598	2917
6	1351	1344	-3331	165
7	7114	6130	6991	3187
8	4892	5132	7611	10732
9	1891	3739	-312	-3628
10	4118	3649	12397	15261
11	3469	4197	-14234	-14514
12	13975	17526	32862	33463
13	13338	9726	-3899	-7401
14	5522	8714	36999	36514
15	9113	14895	-50780	-34768
16	27815	67555	112854	92573
17	73108	28425	18501	28425

- 1) $t2 = .058, t3 = .343, t4 = .536, t5 = .063$
 $R^*_{15} = (1 - t5) R_{15}, R^*_{16} = (1 - t2) R_{16}, R^*_{17} = (t4 + t5) R_{17}$
- 2) $t3 = .390, t4 = .610, R^*_{17} = t4 R_{17}$


```

10 REM *ハク*ヨウレツ
20 REM ニウリョク
30 READ N
40 PRINT "N=";N
50 DIM A(N,N)
60 FOR I=1 TO N
70 FOR J=1 TO N
80 READ A(I,J)
90 PRINT "A(";I;",";J;")=";A(I,J)
100 NEXT J:NEXT I
110 STOP
120 REM センシ
130 FOR J=1 TO N-1
140 FOR I=J+1 TO N
150 P=A(I,J)/A(J,J)
160 FOR K=1 TO N
170 A(I,K)=A(I,K)-P*A(J,K)
180 NEXT K
190 A(I,J)=-P
200 NEXT I:NEXT J
210 REM
220 FOR I=1 TO N
230 R=A(I,I)
240 FOR J=1 TO N
250 A(I,J)=A(I,J)/R
260 NEXT J
270 A(I,I)=1/R
280 NEXT I
290 REM コタイ
300 FOR J=2 TO N
310 FOR I=J-1 TO 1 STEP -1
320 Q=A(I,J)
330 A(I,J)=0
340 FOR K=1 TO N
350 A(I,K)=A(I,K)-Q*A(J,K)
360 NEXT K:NEXT I:NEXT J
370 REM ヌツリョク
380 FOR I=1 TO N
390 FOR J=1 TO N
400 PRINT "A(";I;",";J;")=";A(I,J)
410 NEXT J:NEXT I
500 DATA
    
```

逆行列を求めるプログラム
 Program for calculation of inverse matrix.

T_4^{-1} は小型計算機によつて求めた。プログラムを上
 に示す。方法は戸川 (1971) に従い、メモリーを
 最小限に押えている。一般の T^{-1} もこれで求めるこ
 とができる。

応 用 例

大槌川におけるサケの年令組成調査より求められ
 たデータを第1表に示す。このデータに基づいて行
 なつた計算結果を第2表に示す。 tk は平均値を使
 用した。負の値が出ており、これを消去するには

tk , R^* の値を変える必要がある。簡便法は $t2$, $t5$
 を考慮した方法と同様の傾向を示しており、これ
 で十分使用に耐えると考えられる。⑫式より判断して、負
 の値を消去するには R^* よりも tk の値を変える方
 が有効である。

考 察

実際の tk_i の行列を T とする。

$$T^{-1} = T_4^{-1} + J(T_4^{-1}) \quad \text{とおくと,}$$

$$c = T^{-1}r = c' + J(T_4^{-1})r$$

となるので誤差は $J(T_4^{-1})r$ である。大槌川のデー
 タの T と T^{-1} を第3表に示す。 T で $t3_i$ と $t4_i$ の値
 が逆転したり接近している部分では、 T^{-1} の対応す
 る部分の値が他と大きくはなれている。それは特に
 第6列で著しい。このような部分では $J(T_4^{-1})$ の値
 が大きくなり、負の値をとりやすい。 tk_i の値が安
 定であれば負の値をとることはないと考えられる。

ま と め

T_4 と T_2 では結果に大差なく、実用面から考
 えて T_2 で十分であると言える。しかし、データによ
 つて負の値をとることがあるが、その場合は、⑬式
 によつて $t3$, $t4$, R^*_{n+4} の値を変化させて、より適
 切な値を得ることができる。しかし、つじつま合わ
 せの作業に陥る危険性があり、使用には十分な注意
 が必要である。

本論を終えるにあたり、助言していただいた東京
 大学農学部水産学科水産第一講座の方々へ深謝しま
 す。

文 献

能勢幸雄・赤嶺達郎・清水 誠 (1980). 年令
 組成不明の場合のサケの回帰率の推定(2).
 昭和54年度「溯河性さけ・ますの大量培
 養技術の開発に関する総合研究」プログ
 レス・レポート 移殖効果の安定強化(2),
 日本海区水研: 51-59.
 戸川隼人 (1971). マトリクスの数値計算. オ
 ーム社, 東京, 323pp.